

BONS A I の芸術祭—アジア太平洋盆栽水石高松大会

高松は、盆栽の街です。市内の鬼無、国分寺両地区で生産される松の盆栽は、全国の8割のシェアを占めています。もともと瀬戸内海沿岸に自生する松が盆栽に適しており、江戸時代に、そのまま鉢植えに仕立てて販売したことが始まりと言われていています。

その高松で、世界有数の盆栽の国際展覧会である「第11回アジア太平洋盆栽水石高松大会（AS P A C）」が11月18日から4日間、サンポート高松、玉藻公園、栗林公園などを会場として開催されます。2年前の台湾大会には、アジア太平洋地域の国々はもとより、ヨーロッパなど42の国や地域から、1000人近くの人が訪れていた世界中の愛好家が注目している大会です。

盆栽は、小さな鉢に植え込まれた樹木だけで壮大な景色を作りだす、中国で生まれ、日本で独自の発展を遂げた芸術性の高い園芸です。そこには、「わび・さび」にも通じる日本独自の「凝縮」の美学があります。「日本の庭園もまた大きい自然を象徴するものです。（中略）その凝縮を極めると、日本の盆栽となり、盆石となります。」とノーベル文学賞の受賞記念講演で川端康成氏が述べています。（※）

盆栽は、今や海外でも人気が高く、「BONS A I」は世界共通語として通じるまでに普及しています。19世紀後半に、浮世絵や陶磁器などとともに盆栽がヨーロッパに紹介され、ジャポニズムでもてはやされたものが、今日的価値で見直されているとも言える現象です。かのエルメスのスカーフにも盆栽柄は採用されています。また、日本では中高年の趣味だとされてきた盆栽も、欧米では、若い愛好家が数多く見られます。

AS P A C高松大会の準備も大詰めを迎えています。大震災や円高の影響で、何かと苦勞が多いところですが、11回目にして初めて日本で開かれる大会です。地元高松の若手職人もデモンストレーターとして登場します。本家本元ならではの、奥が深く芸術性の高い盆栽の世界を見せていただき、国内外からの来場者を存分に楽しませてもらいたいと思います。

是非皆さんも、高松が世界に誇る「BONS A Iの芸術祭」に足を運び、その美と魅力を堪能してください。

（※）「美しい日本の私」川端康成著（講談社現代新書）